

Car Entertainment Magazine

[ゲンロク]



FERRARI
SPECIAL

フェラーリの
世界。

【完全分析】599GTB
【エンジオを感じて】458イタリア
【カジュアル再考】カリフォルニア
【本社訪問】ワソオフの創り方
クラシケの実態
F1マシンの買い



EXCLUSIVE WORLD

【花岡弘明が挑む】
メルセデス・ベンツ

【最終テスト】
アストンマーティン
ONE-77

【歴代集結】
RUF CTR
三世代バトル

RACING at The FRONT
ゴンペティション 最前線

【最強上陸】ポルシェ911GT3R
【新たな展開】ポルシェGT3チャレンジカップ
【ニュル24hレポート】
アストンマーティン・ラピード他
【勝利への第一歩】
プロ専用シミュレーター

New Car Impression
BMWアクティブ・ハイブリッド7
メルセデスSクラスハイブリッド
レクサスLS600h

The Vintage Now
アバルト・シムカ2000GTコレクション
ヴィンテージ・デスティネーション

The Scene
寺脇康文
メルセデス・ベンツ

SHOP REPORT
BMW/GTR
ベンツレー特別

お喋り工房

Special

GENROQ
Taro's
OSYABERI
KOBBOU

連載46回

国産旧車の新たな息吹。

PHOTO・藤原晃一
(Koichi Shinohara)

今回はスペシャル拡大版でお届けするお喋り工房。太郎が懐かしの国産旧車に触れ、そこには新たな価値を見出す。懐古主義に留まらない、新鮮な可能性がそこにあった?

お喋り①

KGC10の存在が太郎の人生を変えた

この最近、世のエヌスー親父の間では国産旧車に大きな注目が集まっている。「エヌスー」とはいってもいわゆる脂ぎりで理屈っぽいオタク系ではなく、仕事にも遊びにも常にエネルギーひとつ前向きに取り組み、さらには豊富な経験とそれに裏付けされたセンス、高い経済力までを手に入れた「スーパーインスー」たちが、主に70年代前半の国産旧車に戻ってきていているのだ。

実際、GENROQに登場するような夢ある世界の超級モデルをメインに扱うショップでも国産旧車が販売されるようになり、どれもがピカピカにレストアされてかなりの高額で店頭に並べられる。安くても500万円超、トヨタ2000GTあたりは3000万円超でも余裕で売れるというからスゴイ話だ。

50代も半ば(アラ還!)に差し掛かつた太郎だが、70年代の国産車にはもちろん特別な想いがある。太郎がジドウシャの免許を取つて初めて手にしたのは昭和C10で現実となつたのである。

新しく首相となつた民主党の菅直人さんが所信表明演説した「強い経済」云々にも通じる理念だが、人間はいつも「強さ」に憧れ、それを目指していく時にいちばん力が出るのかもしれない。そう、そこに「生」を感じるのだ。少なくとも、自分たちの国にも明確な「憧れ」をジドウシャに抱ける時代があつたことを70年代の国産車たちは思い出させてくれる。それを単なるノスタルジーとして捉えるか、新たな指標に向かうための原動力へと変換させられるかは、この先、ジドウ



お喋り②

旧車特有の「生」の感触その中にヒントを見出せ!

人生に没頭していくのだった。

10との出会いこそが、太郎のその後の人生を変えたと言つていい。

相ともあれ、このKGC10は首都高が250円の時代、満タンで環状線に上りひたすら周回(シングルキャブ)のGTでは1周14kmで7分を切れずに悔しい思いも

……)したり、銀座のボーラー仲間と共に高級クラブのお姉さんの送迎ビジネスを展開して小遣いを稼いだり(同時に疲れたお姉さんたちに喜ばれるスマーズな運転も覚えた)、無論遊び

り込んだのもこのKGC10と共にだった。

当時、銀座は日産系が主流、青山方面

はアメ車が幅を利かせていた)にもガン

ガン使い、さらには真剣にラリーにのめ

り込んだのもこのKGC10と共にだった。

現役レーシングドライバーとして、日々

様々な最新鋭モデルと接している。EV

からバリバリのレーシングカーまで、そ

の幅は自分でも想像を超えるほど広範囲

だ。しかし、どれもが時代の要請と需要に則して進化/発展している面は評価で

きるが、より根本的な「生」の感触を感

じ取ることは難しくなつてしまつた。

70年代前半の日本は高度経済成長期がいちばん伸びていた時代だったと思

う。この後少しするとマスキーフやオリ

ンショックで厳しい時代に突入するが、

太郎が免許を取つた頃は、60年代から続

いたジドウシャへの夢が、まさしく叶

はじめた幸福な時代だったのだ。第2回

日本GPでの生沢徹と式場社吉による伝

説のスカイライン2000GT対ボルシ

エ904GTの戦いで多くのファンが沸

47(1972)年式の日産スカイライン2000GTハードトップ(KGC10/箱スカ)だった。大学の合格祝いという名目で親に買ってもらったクルマだが、実際に買ったかったクルマだが、

実際には高校時代にダックスを皮切りに2輪にハマッた太郎の「青春の暴走」を喰い止めるために、大卒初任給が10万円程度の時代に新車で87万5000円もの

C10を眺める太郎の胸にはありありと

「あの頃」の記憶が蘇つていた。

このKGC10は岡崎の有名な国産旧車専門店「ロッキー・オート」の渡辺社長が用意してくれた1台。ロッキー・オートは今から25年前に渡辺社長が愛する日産系の旧車を扱うショップとしてオープンし、20年ほど前から旧車を現代の技術で「再生」するビジネスを開拓、大きな成功を収めている。目の前にあるKGC10もエンジンはL型からRB25(スポーツインジェクション)に換装され、それに伴いパワーステアリング(ラック&ビニオン)

車の前にあるKGC10を眺める太郎の胸にはありありと「あの頃」の記憶が蘇つっていた。

このKGC10は岡崎の有名な国産旧車専門店「ロッキー・オート」の渡辺社長が愛する1台。ロッキー・オートは今から25年前に渡辺社長が愛する日産系の旧車を扱うショップとしてオープンし、20年ほど前から旧車を現代の技術で「再生」するビジネスを開拓、大きな成功を収めている。目の前にあるKGC10もエンジンはL型からRB25(スポーツインジェクション)に換装され、それに伴いパワーステアリング(ラック&ビニオン)

車の前にあるKGC10を眺める太郎の胸にはありありと「あの頃」の記憶が蘇つっていた。

このKGC10は岡崎の有名な国産旧車専門店「ロッキー・オート」の渡辺社長が愛する1台。ロッキー・オートは今から25年前に渡辺社長が愛する日産系の旧車を扱うショップとしてオープンし、20年ほど前から旧車を現代の技術で「再生」するビジネスを開拓、大きな成功を収めている。目の前にあるKGC10もエンジンはL型からRB25(スポーツインジェクション)に換装され、それに伴いパワーステアリング(ラック&ビニオン)

車の前にあるKGC10を眺める太郎の胸にはありありと「あの頃」の記憶が蘇つっていた。

『懐かしさ』よりもむしろここには『新鮮』な感動がある。

シャに対する「楽しさ」を継続させる上でも、重要な分かれ目となるだろう。

お喋り③

壊れなくて快適! これは新たな価値観だ

ある日曜日の朝。伊勢湾岸道の長島SAで太郎はあまりにも懐かしい1台との再会を果たしていた。

太郎のかつての愛機と同じ昭和47年製のKGC10。色はGTRシルバーに塗られ、オーバーファンダーも含めてGTRルックになつてはいるが、目の前にある箱スカからまさに「懐かしい匂い」が発せられていた。現代の基準から見れば明らかに小さく締まつたボディ、ボクシーなのに抑揚の効いた表情を見せ



とフルオートエアコンも装備。さらにはフレーム強化にブレーキを含めた足まわりのアップグレードとともに現代の「常識」が存分に注入されている。

もちろん、ボディ、インテリアとともに完璧にレストアされ、望めばATの搭載やリヤサスペンションのマルチリンク可、エンジンフルチューン、カーボンボディの製作までオーダーできるという。

太郎・社長はどうしてこういう商売を考えついたのですか?

渡辺社長・日産系の旧車が個人的に大好きというのがいちばん大きいですが、そこは「旧車」ですから結構壊れるわけですね(笑)。雰囲気だけを楽しむのならそれでもよいのでしようが、現代のクルマを知ったお客様にはそれでは通じません。





カーボンボディの弾丸仕様。 夢が見られる1台だ。

30 CARBON Z



ボディパネルのほぼすべてをカーボンマテリアルで製作。エンジンはRB30をベースにRB26用のヘッドをNA化してブラッシュアップ。吸排気系はキャブ仕様(ソレックスの50パイ)に等長ステン6-1エキマニと本気の仕上げ。さらに足まわりもワンオフでブラッシュアップ中というから興味深く。キャブ化に伴いパワステやエアコンといった快適装備は省かれスバルタンな性格とされているが、その分「さしさ」は満点。こうした本気仕様がクリエイトできる点もまた、ロッキーオートの大きな魅力。現在、RB系のパドルシフトやVQ&セルシオ用V8を搭載するプロジェクトも進行中で、その進化の動向からはまだまだ目が離せない。「自分好み」の仕上げ方で旧車の世界にさらなる幅を持たせてくれる、まさに夢あるホビーの在り方といえるだろう。価格:1290万円。



150台を超える圧巻のストック! 好みの1台を創ってくれます!!



「豊かで快適な旧車ライフの創造」を企業理念に掲げるロッキーオー。ショールームには上級のコンディションを誇るオリジナルのハコスカGT-Rが並び、屋外の展示スペースにはまさに足の踏み場のないほどの日産系旧車が並んでいる。レストアからモディファイ、チューニングのすべてを自社ファクトリーで行い、25年に渡る歴史で培った「ウハウ」とセンス、何より熱い情熱によって、文字通り「理想の旧車ライフ」を支えてくれる。

ROCKY AUTO

住所:愛知県岡崎市明大寺町字大塚55-31
TEL:0564-58-7080 URL:<http://www.rockyauto.co.jp/>

んが「今日はあまりキャブの調子がよくなくて……」と氣にしてくれたが、太郎は逆にそういったやり取りも新鮮に感じた。「グルマと対話する」という行為を、太郎はここ暫く忘れていたのかもしれない。いや、現代の最新モデルでも攻め込み。いや、現代の最新モデルでも攻め込めば「対話」は必要になる。しかし、工エンジンを掛けた瞬間からこれまで生にダイレクトにその存在を訴えかけてくることはない。

かのGM副会長である世纪のカーガイ、ボブ・ラツィは、ホビーで戦闘機に乗ることでも有名だが、彼がいちばん気に入っているのは乗りにくいミグ(旧ソ連時代にパイロットが亡命しづらいように乗代にくくしたという説もある)だという。太郎にはこの気持ちがよく分かる。簡単に手懐けられるものより、そこにテクニックや呼吸が要求されるものの方が遙かに楽しく、心に残ることをこれまでの経験で知っているからだ。その感触が、このS30Zには確実にある。コイツは本気で気に入った。降りたくないときさえ思えた。価格は1290万円だというが、まったくもって高くないと思う。それだけの手間と情熱が、このマシンには確実に掛けられているのだから。



単なる懐古主義ではない 繋ぐ心が重要なのだ

もし、今回用意された国産旧車が「当時のままのものだったとしたら、太郎はもしかするとここまで感動はしなかったのかも知れない。懐かしさはあつたろう。しかし、そこに新鮮さはなかったはずだ。時代は常に進化している。時代ごとの味わい、よさは絶対に色褪せることがないのも事実だ。ただ、後世にその魅力を伝え残すにはブラッシュアップだけが必要なのではないか?

太郎が大好きな映画『ひまわり』。マルチエロ・マストロヤンニとソフィア・ロッキーオートの渡辺社長と、「約束通りのクルマを造りたい」というその言葉にこそ、ロッキーオートの熱く真摯な精神の根源が込められている。労力もハンパではないと思うが、日本にもこうした本気の存在がいることを改めて理解し、そのさらなる発展を願いたい。

時代は常に進化している。 恐れずにブラッシュアップしよう!

KGC10の完成度に感心した太郎だったが、実は心から感動したのは別に用意されたもう1台の方だった。昭和49(1974)年製のS30Z。エンジンはRB30をベースにヘッドはRB26用を

リングージレクラッチを繋ぐ。動き出しても自然。あの頃の記憶がリアルに蘇る。SAから伊勢湾岸道へ合流してスピードを上げる。乗り心地のよさに驚く。フレームの補強が確実に効いていて全体の剛性が上がっている。無論、エアコンも効いていて快適。でも、適度にタイトな室内に響くエンジン&エキゾーストサウンドは存分に旧車の世界。「確かに、コレはアリだ!」と、太郎はそのバランスの妙に素直に感心したのだった。

お喋り④
キャブ車の息吹に改めて魅了される。



N.A仕様にリファイン。吸排気系はソレックスの50パイに等長ステン6-1エキマニとかなりヤル気。しかもボディはカーボン。シャシー全般もエンジン搭載位置(フロントミッド化)含め大幅にブラッシュアップされている。シリンドラーハードウェイを攻めた時よりも刺激的だ。中で燃料が爆発しているのがリアルに感じられる。アクセルの開度で燃料を込められた。隣に乗ってくれたメカニックさを感じ。隣に乗ってくれたメカニックさ

GENROQ太郎の お喋り工房 Special



SKYLINE RB25(Kai) Sports Injection

納得のバランス感覚。
まさに新鮮な価値観だ。

ロッキーオートがクリエイトする「旧車再生」の王道仕様。スポーツインジェクション仕様(6速スロットル)のRB25を搭載することでパワーステ(ラック&ビコーン)とフルオートエアコンの装着を可能とし、信頼性(エンジン)と快適性の両立が図られている。さらにはフレームの強化、足まわりのブラッシュアップ(ブレーキ含む)も図られ、現代レベルの走行性能が確実に実現されている。もちろん、ボディ&インテリアのレストアも抜かりない。こうしたフルオーダー仕様の完成納期は約1年が目安。価格は1000万円。この個体は920万円で販売中。予算に合わせてエンジン換装のみ等のセミオーダーも可能。東京都内を中心にスーパースポーツのユーザー層が主な顧客(年12台製作中の7割目安)ということからも、そのセンスとクオリティの高さが理解できるだろう。